数字で見る普天間飛行場

普天間飛行場の面積

475.9ha（東京ドーム約 100 個分）

普天間飛行場は、まちの中心部に位置し、市面積（約 19.8ｋ㎡）の約 4 分の 1 を占めています。
また、市の北側にあるキャンプ瑞慶覧の面積（約 1.059ｋ㎡）も合わせると市面積の約 30％が米軍施設によって占められています。

宜野湾市の人口密度（平成 31 年 1 月末現在）

約4,986人/k㎡

基地の面積を除くと・・・

約7,061人/k㎡

基地を除いた宜野湾市の人口密度は、東京都（約 6,169 人/k ㎡）や大阪府（約 4,640 人/k ㎡）を上回るものとなっています。
（宜野湾市の人口 98,726 人　平成 31 年 1 月末。東京都、大阪府の人口密度は H27 国勢調査より）

年間騒音発生回数

12,152回（平成 29 年度　宜野湾地区）

宜野湾地区では、1 日あたりで 33.3 回（平成 29 年度）もの騒音が測定されています。基地周辺では、日常的に騒音に晒された生活を余儀なくされており、住民にとって大きな負担となっています。

騒音最高値

123.7dB（平成 30 年 12 月 5 日　上大謝名地区）
20 時 31 分測定

夜間騒音

100.1dB（平成 31 年 2 月 14 日　上大謝名地区）
22 時 53 分測定

平成 30 年度に測定された騒音最高値は 123.7ｄB で、これは「飛行機のエンジン近く」よりもさらに大きな騒音とされています。また、日米合意で 22 時以降の飛行は制限されているにもかかわらず、夜間騒音も度々記録されています。

騒音の大きさ	具体例
120dB	飛行機のエンジン近く
110dB	自動車のクラクション（前方2m）

騒音の大きさ	具体例
100dB	電車通行時のガード下
90dB	騒々しい工場内

環境基準超過日数　138日（平成 29 年度　上大謝名地区）

環境省が定める環境基準値（生活環境を保全し、人の健康の保護に資する上で維持されることが望ましい基準）を超えた日数が、平成 29 年度では上大謝名地区で 138 日を記録しており、昼夜を問わず市民生活に深刻な影響を及ぼしています。

普天間飛行場の常駐機　58機

ＭＶ-22Ｂ　オスプレイ	２４機
ＣＨ-53Ｅ　スーパースタリオン	１２機
ＵＨ-1Ｙ　ヴェノム	６機
ＡＨ-1Ｚ　ヴァイパー	１２機
ＵＣ-12Ｗ	１機
ＵＣ-35Ｄ	３機

MV-22B　オスプレイ

CH-53E　スーパースタリオン

所有形態・地主数・軍人数・従業員数

地主数　3,722 人（平成 29 年 3 月末）

うち市内在住者は約 2,178 人

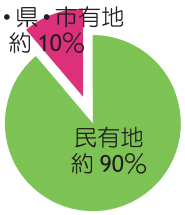
年間賃借料　約 74 億 4,800 万円（平成 28 年度実績）

軍人・軍属数　約 3,200 人

日本人従業者数　213 人（平成 29 年 3 月末）

宜野湾市の従業者数 32,121 人（平成 29 年　経済センサス:総務省）のうち、普天間飛行場内の日本人従業者数は 213 人で、市内従業者数のわずか 0.6%程度であり、市域面積の約 1 / 4 を占めているものの、雇用面でみても高くないことが分かります。

所有形態別面積の割合



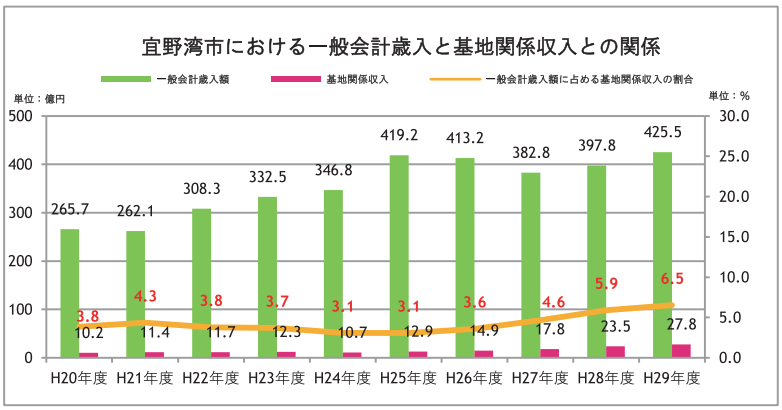
※全体の約 9 割が民有地

基地と財政

6.5%

一般会計歳入額に占める基地関係収入の割合

※基地関係収入
基地があることで生じる諸費用や返還地の整備等に係る諸経費について、国から交付される交付金、補助金を計上



宜野湾市の一般会計歳入額に占める基地関係収入の割合は7%以下に留まっているにも関わらず、基地があることによって都市計画や施設配置に影響を及ぼすなど、市の経済発展を阻害する要因となっています。一方で、近年基地関係収入が増加している要因としましては、キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区（平成27年3月返還）や普天間飛行場東側部分（平成29年7月返還）の返還に伴う事業費の増加等が挙げられます。